

大島 憲
澤 鹿之助
平野 文夫
末川 將常
隈崎 守約
長谷川達三
加賀美光賢
伊東巳代治
大森 鐘一
久保田貫一
落合 潤三

ト覺悟シテ生徒ノ才不才ト其家ノ貧富トヲ觀察シテ或ハ學費ノ全額ヲ給與シ或ハ其半額ヲ貸與スル等様々ノ法ヲ設ケテラハ歐米諸國ヨリ日本ノ留學生ハ常ニ二百名ニ下ラズ此輩ガ成年成業シテ歸國スルハ即チ文明開化ヲ携ヘテ歸ルモノニシテ其趣ハ蜜蜂ガ花間ニ隠ケシテ其身ニ蜜ヲ附ケ去テ巣窟ニ歸來スルニ異ナラズ而シテ其文明ノ蜜ハ我國人一般ニ普ル所ノモノナレバ獨リ留學生其人ノ幸ノミナラズ日本全國ノ利益ト云フ可シ又或ハ海外ノ留學生ニテ以テ足レリトス可キコト非ズ此外ニモ學問ノ爲メ資金ヲ要スルノ事項ハ甚ダ多シ文事務般ノ發明工夫ヲ以テ各國學問ノ社會ニ先鞭ヲ着ク文ヲ以テ海外ニ頒布シ又コレヲ誇ラントスルニハ篤志專門ノ學士ニ限リ得ヘシトテ資金ヲ給シ其自由自在ノ學動ニ放任セザル可ヲ深慮シ學問者ガ事物ヲ研究シテ真理ノ所在ヲ求ル其狀ハ俗眼以テ見ルハ愚ナルガ如ク在ルガ如ク懶惰ナルガ如ク尋常ナルガ如ク一日ニレテ評シテ偏人奇物ト稱ス可キモノ多シト雖モ如何モ世界古今ノ大發明ハ皆偏人奇物ト稱シ得テ得ル任憑生テ成ルベシト學問ニ金ヲ要スル理由ハ大體斯ノ如ク其邊ノ細目論ハ其時ニ讓リ給ケル之ヲ備ハスルニ非ズ而シテ學問ニ金ヲ要スル別ノ支出増徴ニ非ズ而シテ倍々進歩シテ得ルモノ也ト云フ可ケル況ニ毎半ニ十方國ノ省略少シテラハ其於テナラズ但シ私塾ノ如ク學校ヲ私立シテ費ヲ減スルハ其私立校ノ体裁ハ固ヨリ今ノ官立ノ如クナラズ俗務少シク職員モ減シ外面ヲ整ヘザレバ營繕等モ日カラ質素ニ移リテ學校ノ全面何トシテ寂寥スル可シト雖モ畢竟教育ナルモノハ其性質ニ於テ政治ニ異ナリ虛實相半スルニ非ラズシテ唯實ニ一方ヲ求ルモノナラズ切ノ虚飾外装ヲ要セズ仮令ニ無縁ノ外客ニ逢フモ之ニ示スニ唯教育法ノ整頓ヲ以テスルノモニシテ仮令ニ建物什器等ノ不興アルモ校中職員ノ衣冠齊然タラザルアルモ毫モ愧ルコト足ラザルナリ唯我輩ノ所望ハ今ノ財政ノ安スカラザル時ニ當テ苟モ省路ノ可キ經費ハ之ヲ省路シ又今ノ學事ノ振ハザル時ニ當テ同額ノ資金ヲ以テ一倍ノ事ヲ爲ス可キモノナラバ之ヲ爲サント欲スルノ點ニ在ルノ也 (以下次號)

院省長官ノ轉換
本日ノ公報欄内ニ掲載スル如ク我政府内閣議中ニテ其兼任スル内務事務ニ二三ノ轉換アリ即チ參議山縣清君ハ參事院議長ノ兼務ヲ免シテ更ニ内務卿ニ兼任シ參議山田顯義君ハ内務卿ノ兼務ヲ免シテ更ニ司法卿ニ兼任シ參議大木喬任君ハ司法卿ノ兼務ヲ免シテ更ニ文部卿ニ兼任シ參議福岡孝弟君ハ文部卿ノ兼務ヲ免シテ更ニ參事院議長ニ兼任シタリ回顧スレバ山田君ガ内務卿大木君ガ司法卿福岡君ガ文部卿ニ卿タリシハ一昨明治十四年十月時ノ内閣更迭以來ノコトニテ今日ニ至ルマデ任期正ニ滿二年間ナリシ獨リ山縣君ハ去年三月參議伊藤博文君ガ憲法取調御用トカコト歐洲ニ渡航スルノ時ニ際シ伊藤君ニ代テ參事院議長ヲ兼務シタリシヲ以テ其任期前三君ニ比スレバ凡四ヶ月ヲ短クセリ此四君ガ各其兼務ノ職ニ在ルノ間我日本ノ政治社會ニ變化決シテ少ナシト爲サズ試ニ十四年十月以前ノ有様ニ以後ノ有様トヲ比照スレバ我々ハ一日ノ前後相違ノ頗ル大ナルヲ見出スナリ而シテ此相違ハ十四年十月ノ内閣更迭ノ後ニ在リタルヨリシテ推察シ更迭即チ相違ノ原因ナリト臆断スルモ敢テ大ナル誤見ニハテザラズルベキカ果シテ然ラハ今回ノ轉任モ亦我政治社會ニ表面ニ何様カノ變化ヲ生スルノ原因トナルベシト豫期セシモノ固ヨリ尋常ノ推測ナリトシテ不可ナカルベシ然レモ唯今回ノ轉任ノ如キハ單ニ現内閣員中ノ二三ノ人ガ各其兼任スル所ノ事務ヲ交換シタルマデノ事ニシテ別段大造ノ變革ニハトラス故ニ斯ル狭小ナル原因ノ爲メニ大體ニ結果アルベシト豫期スルノ事ニ就テ是レ政治社會外ニ素人思案アル事ニ免カレザルベシ然リト雖モ内務卿ナリト如キ直接ニ日本内國ノ行政事務ヲ司リ直接ニ府縣ノ官吏ニ命令スル最モ大ナル權力ヲ有ル官職ニシテ其當任ノ人ヲ變更スルニ於テハ其影響決シテ無ク狭小ナルモノニハアラザルベシ我輩ハ日本全國人民ト共ニ其影響ノ大小如何ヲ今日以後ニ實見セリトテ樂觀シユナリ

電報

○十一月十九日巴黎發 再ハ清佛談判を聞きたり○佛國議院並ニ極左党以テ支那をして其要求を穩便にせしむるの計畫をらんと希望せり○佛政府ハ更ハ兵隊を亞弗利加に派遣せんとして目下其用意最中なり○千八百八十五年の佛國殖民事務費額豫算は目下熟議に取掛りシダフェリックス、フォール氏は其中に緊要の修正を加へんとせり○佛國議院は政府より下附したる東京連征費徵集議案を議決せんとする様子あるが議案調査委員の過半数の連征費の徵集に左袒し居れり

○十一月二十日巴黎發 東京連征費徵集議案は斷然議決するからん○佛國ヤツタニル、ド、アフリクニ隊二ハタリオンは軍艦マイトリ號に搭して来る二十四日佛國を出るするならん○フアリール氏のフニリル底の議を聞きたり